

# 安達謙蔵関係文書（所蔵）目録

2020年5月

国立国会図書館憲政資料室

**目録・最新の概要情報はウェブサイトに掲載しています**  
国立国会図書館リサーチ・ナビ「憲政資料室の所蔵資料」  
(<http://rnavi.ndl.go.jp/kensei/>)

安達謙蔵関係文書(所蔵)目録

資料番号	枝番 1	タイトル	作成者	内容	複製
1		江木翼書簡	江木翼	昭和五年一月一二日宮崎市長大迫元繁選挙に出馬希望	MF
2		浜口雄幸書簡 [...]			MF
	1	浜口雄幸書簡	浜口雄幸	大正一三年六月二〇日大会切迫浜口総務の辞表御廻付宜敷御取計願う右の件は加藤高明総裁の諒解済み	MF
	2	浜口雄幸書簡	浜口雄幸	大正年七月二四日整理案副本一部御手許に送付	MF
	3	浜口雄幸書簡	浜口雄幸	昭和二年一月一九日(若槻礼次郎宛)病後疲労回復のため熱海にて静養本日日出発各方面からの政局緩和運動あるも政府は絶対に受動的態度を厳守し早き機会に於て既定の方針の決定が肝要解散時には政府の態度につき即時声明書発表必要大事御決定の時翰長より小生宛一報ありたし	MF
	4	浜口雄幸書簡	浜口雄幸	昭和二年一月二六日過日は遠路御来訪拝謝小生転地療養一週間を経過疲労回復予定の如く進捗せず真鍋医師の意見をも聴取静養期間を二月一〇日迄延長致度右件御裁可手続に付ては中島秘書官より内務省秘書課へ相運可申若槻首相へは書面で挨拶御大葬儀迄には活動出来候様専念静養	MF
	5	浜口雄幸書簡	浜口雄幸	昭和二年一月二六日(若槻礼次郎宛)議会停会三党首会見の経緯についての若槻意見拝承二三日に安達来訪政局に関する説明を聴取教育費問題は本年度は五百万円程度の増額で床次は満足静養期間真鍋医師の意見により二月一〇日迄延長手続依頼	MF
	6	浜口雄幸書簡	浜口雄幸	昭和四年一二月一七日明日開会の人口食糧調査会人口部に付き藤村義郎(朗)男爵より申入承諾御含ありたし人口部会議事取り決定人口問題に関する常設調査機関設置の必要あり(藤村)此委員会は本年度一杯継続部にて常設機関の具体案提案すべし(安達)と然るべく御応酬されたし	MF
	7	浜口雄幸書簡	浜口雄幸	昭和五年八月二四日地方官更迭御詮議中加藤高明未亡人から依頼取りつぎ石井保台湾総督府警務局長転任願	MF
	8	浜口雄幸書簡	浜口雄幸	年二月五日〇〇と提携聯盟の件聯立か閣外援助か篤と考究必要提携聯盟の大方針に向けて党内の空気の一定必要拝眉の上委しく打合せ可申上	MF
	9	浜口雄幸書簡	浜口雄幸	年五月一六日沖縄の比嘉盛章氏より別紙来信御参考の為御廻送	MF
	10	浜口雄幸書簡	浜口雄幸	年八月二七日明日の三派交渉会に臨んでの我方の態度についての小生の希望は町田加藤両氏に内話御聴取ありたし多忙にて拝眉の機を得ず	MF
3		福沢桃介書簡	福沢桃介	昭和五年一二月一六日国民新聞切抜を同封桃介の申す処いたずら書きとして御一笑すべからず不条理の事を行はば民政党は神罰を受けて崩壊するならん	MF
4		井上準之助書簡 [...]			MF
	1	井上準之助書簡	井上準之助	昭和五年一月二七日今夕浜口首相訪問のところで独断中止お詫び	MF
	2	井上準之助書簡	井上準之助	昭和六年一〇月九日来週の審議会に提出予定の財政整理案につき井上意見井上作成の審議会議案御覧ありたし地方財政整理の条項は文部省との協定まともらず次の審議会に提出の予定	MF
	3	井上準之助書簡	井上準之助	昭和年七月一日南画家楠田作庵に便宜供与依頼	MF
	4	井上準之助書簡	井上準之助	昭和年七月三日来たる九日の実業家招待会は中止日程取り消しありたし	MF
	5	井上準之助書簡	井上準之助	昭和年七月一三日田沢義舗を呼び寄せ御意見伝達青年館における立場を田沢引受ける意なし安達自ら田沢と面談ありたし	MF

安達謙蔵関係文書(所蔵)目録

資料番号	枝番 1	タイトル	作成者	内容	複製
	6	井上準之助書簡	井上準之助	昭和年一月一日中外商業新報記者伊元某紹介	MF
5		犬養毅書簡	犬養毅	大正一四年一月四日無線電信会社創立記念品寄贈礼状	MF
6		一木喜徳郎書簡 [...]			MF
	1	一木喜徳郎書簡	一木喜徳郎	昭和五年八月二七日小栗一雄氏奈良県知事拝命に付礼状	MF
	2	一木喜徳郎書簡	一木喜徳郎	昭和五年一月七日桑原芳樹氏熱田神宮宮司転任に付礼状	MF
7		伊沢多喜男書簡 [...]			MF
	1	伊沢多喜男書簡	伊沢多喜男	大正一四年五月三日愛媛新報の現状に関する清水氏報告送附然るべく御配慮の程切望	MF
	2	伊沢多喜男書簡	伊沢多喜男	大正一四年五月五日愛媛新報株券所有の件憲政会勢力の維持発展のため必要愛媛新報と憲政会愛媛支部同身一体清水氏より事情聴取の上香川熊太郎の持株買取その他御配慮ありたし小生明後日出発帰任の筈	MF
8		樺山資英書簡	樺山資英	昭和四年八月三日仙石(貢)氏満鉄総裁へ就任の由理事更迭の場合白男川譲介氏採用ありたし小橋(一太)文相へも依頼	MF
9		金子堅太郎書簡 [...]			MF
	1	金子堅太郎書簡	金子堅太郎	昭和八年三月二日外交文教に関する意見は当局者に顧みられず文政審議会は無能無為の機関治安維持法憤慨に堪へず華府会議以来外交官其人を得ず外交機関の改造外交適任者の採用急務思想険悪赤化伝播を救済するに付ては教育の根本的改革必要教育屋の会議では根治不可能大学高等学校の教授に斧鉞を加ふること急務学制改革必要	MF
	2	金子堅太郎書簡	金子堅太郎	昭和八年一月三日八聖殿開殿式欠席詫状	MF
	3	金子堅太郎書簡	金子堅太郎	昭和年五月九日来る二二日に八聖殿へ参上	MF
	4	金子堅太郎書簡	金子堅太郎	昭和年一月二九日日本詩吟学院木村学風氏来訪日支事変出征将士に詩を発送する企て拙詩発送	MF
10		加藤高明書簡 [...]			MF
	1	加藤高明書簡	加藤高明	大正五年一月一日早稲田御訪問問答詳細報道拝承如何落着すへきや関心に堪へざるも別段施策の法も無之傍観の外なし北海道のごと吉報希望に堪へず	MF
	2	加藤高明書簡	加藤高明	大正五年八月二日北海道選挙御予想通りに実現祈る石川県田中より八百円返却の由北海道に関し支出の件異存なし当選者へ電報発送のごと宜敷御取計い相成度本日は娘と孫が滞在中の宮の下富士屋ホテルへ遊びに行き即日帰磯新聞紙に事々しく現はれたるに付一寸説明	MF
	3	加藤高明書簡	加藤高明	大正五年八月二日芳書二通落手政況紛糾町田阪口二氏来訪友会会の宣言及原氏の演説に我党沈黙山隈両老間の交渉聞知する処なき今日何等宣言の致方も無之政府より何かする筋合来たる一五日帰京予定犬養も尚ほ未定	MF
	4	加藤高明書簡	加藤高明	大正五年八月九日御書面拜見老人の談話振に関する評言態と保留昨日時事新報の記事驚入併し大体に於ては間違なし小生の名頻りに現はれ居るに小生沈黙を守らは慣れ合ひの仕事と世上にて見做すべく真相を語らは老侯の声価に影響及ぼすことも可有之小生態度に付相談致し度	MF
	5	加藤高明書簡	加藤高明	大正六年一月八日夜令嬢の衰弱同情を禁じ得ず横浜の支部発会式挙行東海大会のごと本部より通知なし問合せるつもり大津西川より本月二五日前に同地訪問要請岐阜のごと関二して考量する積り臼井哲夫の旅行目的に関し御申聞の趣了承	MF

安達謙蔵関係文書(所蔵)目録

資料番号	枝番1	タイトル	作成者	内容	複製
	6	加藤高明書簡	加藤高明	大正九年九月二〇日東京朝日新聞報道によれば憲政会東北大会一〇月六日に仙台で開催とのこと小生目下地方行の期日を予定致し難し地方支部の決定ならば取消乞う病人は瀕死の状体二〇日間の忌中は地方出張出来ず	MF
	7	加藤高明書簡	加藤高明	大正一一年八月一日四国の一部九州全部御巡回悉なく相済東北地方御出張御苦勞に存す清浦と面会暑気稍低下	MF
	8	加藤高明書簡	加藤高明	大正一一年一二月三日荒川氏の意見転送同人は平常党務に尽さず本部へも近寄らず此の如き屁理屈を述ふるは面白らざる仕方佐世保川副氏大病真に心配の次第なり	MF
11		桂太郎書簡	桂太郎	年四月七日加藤清正等に対する寄附金百五十円差出御査収ありたし幅其外持参某へ差遣の義差支相生す明日は御断り某へ御伝えられたし	MF
12		清浦奎吾書簡 [...]			MF
	1	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	明治二九年三月二八日来客中欠礼清国朝鮮国在留禁止法案修正の上貴族院可決	MF
	2	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	大正四年二月二四日逐鹿戦期接近克堂在露国日本大使館通訳官上田仙太郎を選挙候補者に推薦	MF
	3	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	大正一四年八月三十一日熊本市長問題決定欣慰之至海底電信会社社長に内田嘉吉氏推挙	MF
	4	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	昭和四年七月四日内閣組織敏活に成立中外共に評判好し善政希望財政経済立直し綱紀肅正思想善導急務外交は幣原なれば大丈夫帝国議会は解散を免れさるべし善政施設民望収攬熊本出身者の御取立乞ふ	MF
	5	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	昭和六年九月五日今秋熊本県下に挙行予定の特別大演習後の賜饌参列者人員範囲頗る拡張勤王者の子孫に其の儀無之甚た遺憾御考慮を請ふ	MF
	6	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	昭和六年一〇月四日在満安田鉄之助発送の別紙電報転送福田雅太郎氏にも発送済	MF
	7	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	昭和七年一月四日老兄復党の件最も慎重に処せざれば却て事を誤り易し田中隆三山本達雄氏の斡旋に依り井上準之助氏を説破老生の手で桜内氏を動かすとの説なる由田中と意見交換しては如何其橋渡しはいか様にも出来可申復党時機は議会解散総選挙前が時機なるべし事外は豊秋より御聴取請ふ	MF
	8	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	昭和八年一一月一日八聖殿竣成開殿式一三日は参殿できず諒恕を請ふ	MF
	9	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	昭和一六年一〇月一日細川重賢侯事蹟に関し参考の為銀臺遺事細川重賢公と題する稿本借覽願	MF
	10	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	年六月二七日御腰痛之由艱渋拝察副稿推敲「贈従位細川銀台重賢公」	MF
	11	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	年一〇月二七日豊後人阿部正人紹介面談乞う同人は松田拓相とは相識之間柄	MF
	12	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	年一二月一日明一二日閑話致度来臨請う佐々君其他四五名にも通知致置候（佐々友房宛清浦書翰明一二日午後四時より安達浅山其他熊本より上京の委員と官舎に於て小集閑話致度貴兄にも同志代議士御誘引被下ば絶幸）	MF
	13	清浦奎吾書簡	清浦奎吾	年一二月一日面談予定時間変更他の諸君へも御通知願ふ	MF
13		小泉策太郎書簡 [...]			MF
	1	小泉策太郎書簡	小泉策太郎	昭和四年七月三日鮮かな御手際敬服井上蔵相にて財界の信用を繋ぎたる事は大成功降旗君気の毒千万慰勞の方法煩し度し明日午後帰京に付一度おはなし致度近日鎌倉にて邦英王を迎ふる約あり	MF

安達謙蔵関係文書(所蔵)目録

資料番号	校番1	タイトル	作成者	内容	複製
	2	小泉策太郎書簡	小泉策太郎	昭和四年七月二八日倉元代議士をして御内聞を煩はし候静岡県官吏坂本義八免職問題同人を一昨年宮崎にて選挙に起たしめたる関係からも政変毎に追放されては気の毒又小生の威重をも減ずる次第念の為右の事情申入政局について一度懇談致度博物館復興は緊縮方針の訓示と矛盾するに似たれとも予定の進行御鞭撻不堪希望	MF
	3	小泉策太郎書簡	小泉策太郎	昭和五年五月九日月初帰京御高見を承った後鎌倉か修善寺へ引籠るつもり議会は解散の外なし互ひに赤心吐露相互了解の下に自己の方針を定むること順当	MF
	4	小泉策太郎書簡	小泉策太郎	昭和五年一二月八日前夜の暢談御意中大体諒解今日江木君と会談折衝は完全に成功小生の所謂第一案の上策も実現可能富田幹事長には添田飛雄太郎を差向江木に対しては隔意なく折衝するよう中野君に御伝へ可然今夕より三島地方へ出発震災地救済御含みありたし明後日頃西園寺公を訪問の予定	MF
	5	小泉策太郎書簡	小泉策太郎	昭和六年一月二日震災救護(小学校修理乃至復興再築)の事縦へ低利賃金を供するも更に負担を増すのみ老兄が即時賛意を表したることにより大に意を強ふせり御評定の結果御漏らし願度政府から提案必要政府がやらぬでは民政党は動かさざるべく政友会だけの提案では実行に遠し貴族院提案は筋違い仙石等三長老の苟安運動禁止幣原の居据はりに持ち行く心算安達排斥は老人心理議会后の改造は潰滅の外なし江木君と懇談しては如何	MF
14		河野広中書簡	河野広中	大正年一一月二四日福島支部大会宣言一読抽象疎略に過ぐ江木と相談の上改造願う委細は中山氏より陳申	MF
15		南次郎書簡 [...]			MF
	1	南次郎書簡	南次郎	昭和八年一一月一四日昨一三日の八聖殿開殿式御挙行衷心より祝福上原勇作元帥葬儀之為欠礼	MF
	2	南次郎書簡	南次郎	昭和一一一年八月一〇日熊本三聖殿の為め御出張御帰京祝福先日の御教示については今度朝鮮赴任と相成貴意に副えず不日拝姿委細申上へし	MF
	3	南次郎書簡	南次郎	昭和一五年六月一三十一日三〇日夜御発送の御懇書拝受明後二日は聖殿にて全国吟詠大会開催の由先約ありて欠席遺憾千万一〇日過に拝趨致度	MF
	4	南次郎書簡	南次郎	昭和年二月八日芳書拝受江界電会社社長に安川氏就任経緯承知致さず杜長人選に就ては大野政務総監及び穂積殖産局長に委任済み御推挙の人は小生も承知同感老閣より大野氏に直接御話好都合	MF
	5	南次郎書簡	南次郎	年六月四日昨夜安川氏と会合高橋氏一件同伴につき本日筑紫熊七老兄と会談委細御聞取被下度高橋氏の事は安川氏に成算の見込あり内閣改造成功慶祝	MF
16		中野正剛書簡	中野正剛	昭和年五月四日日本の政治の前途に関し不日参上御指教仰ぎ度政治の出鱈目清朝末時の如し鈴木正吾東方会加入	MF
17		野田卯太郎書簡	野田卯太郎	大正年九月一九日病気見舞礼状	MF
18		岡崎邦輔書簡 [...]			MF
	1	岡崎邦輔書簡	岡崎邦輔	昭和二年三月三〇日議会最終日の紛擾痛歎に堪へず正副議長之退職意外但し正副議長党籍離脱せざるは遺憾一昨年正副議長党籍離脱将来永く其範に因らしめんとせるに蹂躪せられ帝国議会の為如何にも、心外閣下之御尽力により本党とも協議前年御同様之苦心を水泡に帰せしめざる様御尽力希望	MF
	2	岡崎邦輔書簡	岡崎邦輔	昭和四年七月三日内務大臣御就任欠礼わび状大命降下之日直ちに内閣組織せられたるは閣下之方寸より出候もの深く敬意を表す	MF
	3	岡崎邦輔書簡	岡崎邦輔	年二月一七日太田氏に此書を依頼京坂電車株式会社に関する件同社は小生と深き縁故あり水源問題小生郷里之事でもあり円満願意貫徹企望種々の方面より種々の妨害なしとせず同氏陳上御聞取被下度	MF

安達謙蔵関係文書(所蔵)目録

資料番号	校番1	タイトル	作成者	内容	複製
	4	岡崎邦輔書簡	岡崎邦輔	年一月五日春明閣一件にて八日頃面晤致し度	MF
19		尾崎行雄書簡	尾崎行雄	大正六年一二月二三日森田茂川崎克両氏を予算委員に希望	MF
20		西園寺公望書簡	西園寺公望	明治年月二三日(芳川顕正宛)安藤検事よりの電報あらば御漏願う	MF
21		斎藤実書簡	斎藤実	昭和四年五月三日もと咸鏡商道知事の中野太郎紹介御見識置願う	MF
22		佐藤鉄太郎書簡	佐藤鉄太郎	昭和年五月七日来二三日横浜八聖殿にて御開催の吟詠大会健康を害して居る為出席できず御寛恕を請う	MF
23		下岡忠治書簡	下岡忠治	昭和一四年四月一日尚順男貴族院議員当選方御高配を乞う昨日藤村(義朗)男に委曲申置候得共沖繩事情十分疎通し不居坪井九八郎男と伊江男との事甚不面白一層の御尽力切望	MF
24		品川弥二郎書簡 [...]			MF
	1	品川弥二郎書簡	品川弥二郎	明治二九年八月二日尊大人病氣見舞長崎築港論一大事業は中々容易に成就するものに無之議長問題は国民協会がどちらに加担するか標目伊藤首相已代治等心痛伊藤山県会談頼末伊藤辞職談井上山県動静松方排斥論御、心配に及ばず板垣にはそんな力はなし国家のため残念自由派の二知事をするに付薩一長一との御相伴はおもしろし	MF
	2	品川弥二郎書簡	品川弥二郎	明治三〇年六月二八日(品川弥二郎宛平賀義美書翰)欠礼陳謝樟脳山之義に付本日田辺氏に面会住友家は台中県にて林紹堂藤田組と合資して台坂合同会社と称し樟脳製造に着手同社支配役棟居氏に山の模様調査の上御引受宜しからん	MF
	3	品川弥二郎書簡	品川弥二郎	明治三〇年六月二九日台湾一件住友之顧問平賀義美より申来至急御返事乞う藤田住友合同して台湾にて樟脳事業に従事井上へも相談することになるべし	MF
	4	品川弥二郎書簡	品川弥二郎	明治三〇年六月二九日製塩事業好結果葉袋氏一悦い帰京直に駿河に出張製塩事業に付誰か心得ある者を試み見分に御遣し如何紫藤翁いかにも遺憾千万馬匹調査同翁之後任に村上採用の件農務局長へ申遣別紙之通由来御用、心肝要樟脳之事は住友へ直に申置不遠確報あるべし田舎ものがクラブと申て中央の柱のぶらぶらして居る事は承知せず提灯持ちする事気の毒水戸の正義派四方八方より手を入れられ候得共動き不申おもしろし銘々持場を堅固にしてそろりと押す事肝要	MF
	5	品川弥二郎書簡	品川弥二郎	明治三〇年八月二日二六日の芳書拝読右田氏来訪葉袋氏今朝来訪静岡製塩試験場立地三保の松原から遠州への移転提案台湾樟脳之事確答なし台南へ御内通時事乱麻土崩の感あり真正実業家の悪口は聞くに堪はず尾崎其外之人材勅任参事官に任命白根箱根で静養中佐々巴理からの帰朝期日御知らせ乞う老兄病状滋養治療第一大浦知事近況天草のこと伝言乞う	MF
	6	品川弥二郎書簡	品川弥二郎	明治三〇年八月九日御依頼の件釜数制限真偽承知せず拓殖務へ問合する積り真の金もうけは長月日かかるもの健康第一白根専一箱根にて病氣青山博士来診老兄も知事も苦楽の境辺御注意ありたし	MF
	7	品川弥二郎書簡	品川弥二郎	明治三〇年九月二三日製塩一件伊藤博文動静安場保和北海道長官就任宗像徳富高田九州勢大浦を排斥木村翁乃木台湾総督就任西郷従道兼任経済界日々困難白根発病曾禰の外資輸入論話たしかなり	MF
	8	品川弥二郎書簡	品川弥二郎	明治三〇年一〇月二六日松方の黒田伊藤に対する入閣依頼伊藤拒絶松方留任説論松方辞職翻意可笑日本新聞大隈の態度推測伴食大臣の野村を逐い出すか又は大石を農商務大臣にするかしなければ内閣纏らず進歩党白根の健康回復大浦へ此事も伝言ありたし	MF
	9	品川弥二郎書簡	品川弥二郎	明治三一年一〇月二六日朝鮮より無事帰熊上京之節目的を達し得させず御海怒乞う佐々上京時機相待貴族院連の意気これにて安心尾崎辞退皇室の為欽喜在野有志家の欽定憲法遵守希望種々の御困難推察御高励祈る鳥尾の王道弁論御一読ありたし犬声党も容易に分裂もすまじ賊魁大敗相違なし我党来春迄には勝声を発することを得べし	MF

安達謙蔵関係文書(所蔵)目録

資料番号	校番1	タイトル	作成者	内容	複製
	10	品川弥二郎書簡	品川弥二郎	明治年三月二日柏田に書通の依頼は詮なき事残念乍ら自然に任する之外策なし村上身上妻君一件文部俗論の本長倉後任とするも今日は手後れ遺憾	MF
25		添田寿一書簡 [...]			MF
	1	添田寿一書簡	添田寿一	大正年九月二日ジャパン・アドヴァータイザ―紙念の為呈上	MF
	2	添田寿一書簡	添田寿一	年月一九日九鬼男爵小宴に付都合宜敷日取御教乞う	MF
26		杉山茂丸書簡	杉山茂丸	昭和七年七月二三日今朝大原義剛参り援助を蒙候由感謝の儀陳述小生方も感謝同情に不耐心人は政党の為に終始し候者にて地方的の事も同人さへ御使用に相成ば小生共も同人を助ける外道無之宜敷御教使切望	MF
27		高田早苗書簡	高田早苗	昭和年九月二六日早稲田大学教授青柳篤恒氏子息熊本県特高課長青山一郎暫時御引見されたし	MF
28		武富時敏書簡 [...]			MF
	1	武富時敏書簡	武富時敏	昭和四年六月三〇日政友内閣瓦解我党此難局を御引受相成べし政務官の銓衡に当りては佐賀県選出の福田五郎を参与官位に採用ありたし政務官可成各地方に配置必要佐賀県から一人の政務官も出さざる様では県地の人気を沮喪	MF
	2	武富時敏書簡	武富時敏	昭和四年七月三日山田道兄を政務官に採用ありたし	MF
	3	武富時敏書簡	武富時敏	昭和六年八月二二日病気見舞果物御恵与礼状	MF
	4	武富時敏書簡	武富時敏	年七月六日過日来御面働申上賢慮を煩せ恐縮執れも御採択感謝に不堪	MF
29		徳富猪一郎書簡 [...]			MF
	1	徳富猪一郎書簡	徳富猪一郎	大正八年八月二八日日本御帰朝の由新聞にて承知世界大戦後の御觀察定めて有益ならん迂生床上岬吟尚史筆を把居此度は貴党独力にて天下を取られては奈何	MF
	2	徳富猪一郎書簡	徳富猪一郎	大正一〇年一二月二八日今次の議会は憲政会の天王山定めて妙々奇々の御軍略可有之青山会館につき援助請う鈴木富士弥大塊老人も乗気政友系の色彩濃厚なるは社会事業としては遠慮致すべし憲政会諸君の思召安排希望迂生明春帰郷予定国権党諸君へも其旨御沙汰願う	MF
	3	徳富猪一郎書簡	徳富猪一郎	昭和三年二月六日山田敦一九仍の功を一簣に欠く御援助請う	MF
	4	徳富猪一郎書簡	徳富猪一郎	昭和四年七月三日御栄任内相現内閣の長城頼有斯人浜口内閣をして第二の田中内閣たらしめざる様細心御戒慎偏に祈上ぐ平井某可然御拔擢被下度	MF
	5	徳富猪一郎書簡	徳富猪一郎	昭和四年八月二七日思想問題に付ては文学博士鹿子木君尤も適當の示導伯学者の一人と存ず一度御引見ありたし鹿子木博士何とか東京方面に適當の位地なき乎小橋文相とも御相談被下度	MF
	6	徳富猪一郎書簡	徳富猪一郎	昭和六年八月一三日横井氏は是非もなし此上好時機を待つのみ [中欠] 省廃止などは全くの愚案賢明なる公は必らず宿算あらん	MF
	7	徳富猪一郎書簡	徳富猪一郎	昭和六年八月一五日柳井直興氏私信転送如何に老閣の高情に感佩したる乎以て知る可也 (別紙) 病氣療養のため一時休職一〇月の地方官更迭の際復職との御内意感謝一意療養に専心すべし	MF
	8	徳富猪一郎書簡	徳富猪一郎	昭和一三年九月二三日御下命の詩苦吟襖惱	MF

安達謙蔵関係文書(所蔵)目録

資料 番号	枝番 1	タイトル	作成者	内容	複製
	9	徳富猪一郎書簡	徳富猪一郎	昭和二〇年一月九日広尾尊邸より克堂御遺稿御寄贈奉謝史筆西南乱に到り熊本県のことなど根本史料にて叙したき処克翁の戦抱日記入手本懐の至曾て硝煙弾雨一斑の名で御軍談戦袍日記として再読今復た遺稿中にて三読因縁不浅空襲の騒ぎやら転宅やらにて資料紛乱書籍散逸御憐察被下度	MF
	10	徳富猪一郎書簡	徳富猪一郎	昭和二年八月二日柳堤長江等二幅錦上御礼として秘蔵の墨別郵にて奉呈	MF
30		頭山満書簡	頭山満	年四月二〇日望月宗三郎氏紹介同氏より府事情委細御聞取御尽力奉願	MF
31		宇垣一成書簡 [...]			MF
	1	宇垣一成書簡	宇垣一成	昭和六年八月九日京日（京城日報力）社長候補者の件現北海道長官池田氏を抜擢一昨日同氏に対して蹶起を促す此際是非同氏御割愛承諾ありたし老台よりも本人に御勧め乞う	MF
	2	宇垣一成書簡	宇垣一成	昭和六年八月二三日芳墨拝誦半島統治之大局に鑑み御割愛感謝選挙の都合上一〇月上旬に発表とのこと止むなし夫れ迄は世間の晒物とならざる様取扱う積御含み置被下度	MF
32		渡辺千冬書簡	渡辺千冬	昭和年八月一六日神社法に関する委員会委員に柳原義光伯推薦同伯は宗教制度調査会特別委員長五六議会貴族院宗教団体法特別委員長を歴任等の関係より適任者の一人	MF
33		山本達雄書簡 [...]			MF
	1	山本達雄書簡	山本達雄	昭和年一〇月二九日北海道の真珠貝養殖業者小林茂紀紹介	MF
	2	山本達雄書簡	山本達雄	年二月一九日広島電気株式会社と山陰電気株式会社合併の件に付広島電気会社取締役稲葉実氏紹介	MF